

第3回イノベーション会議における意見

- イノベーションの捉え方は、新しいサービスや販売方法など、いわゆる技術革新だけではないことがわかった。
- 戦略の内容について分かりやすさを追求する視点が欠けている。伝えたい対象のニーズを把握し、正確に、理解しやすい形で発信する工夫が不可欠。
- 戦略実行にあたりスピード感は重要。短期・長期のタイムフレームを設定し、可能な施策はただちに具体化し進めてほしい。
- イノベーターとアントレプレナーを1人で行うのは難しく、両方をつなぐ仕組みがあると事業化が進みやすいのではないか。具体的には、アイデアを持っている人と第二創業等を考えていく企業を結ぶというもの。
- イノベーションも結局は方法論。アイデア出しからPDCAを回しながら事業化していくプロセスを支援する環境が必要。
- 企業規模や業態の違いによりイノベーション戦略が異なる点は理解すべき。
- 地域のパートナーシップは、目的が明確でなければ成果につながらない。当地でも異業種交流会とは違う新たなオープンイノベーションができればよい。
- イノベーションのための人材育成は重要で、MBAなどの勉強を広島でできるようになり、ここが異業種で集まる場となるといい。
- 創業・技術経営力評価・人材育成等に関する来年度施策案に異論はなく、しっかり取り組んでほしい。
- 未来予測については、当地域においても、研究し、共有する機会や場が重要で、それを前提に、共通認識のもとで戦略をたてるべき。
- 地域イノベーションのあり方を根本的に議論している場は他にはない。すぐに結果がでないかもしれないが、試行錯誤しながら議論を進めていきたい。